

人体解剖学実習を終えて

人体解剖実習を振り返ってみると、大変有意義な体験に溢れていたように思います。それは、教科書では見ることでできない実際の人体の構造を観察させていただくことができるということです。

解剖実習の前には、教科書や 3D モデルを用いて血管や筋肉といった構造の場所を確認するようにしていました。しかし、教科書は一般的な人体についてしか書かれていないため、実際にご遺体を解剖すると教科書とは違うことも多くあります。その違いを認識しながら自ら手を動かして解剖させていただくことで、人体の構造についてより深く学ぶことができました。

また、ご遺体を解剖することで自分は医療者になるのだという責任感が芽生え、この体験を無駄にしないためにも講義や実習を通じて学習に励む覚悟が生まれました。

このように、私は解剖学実習を通じて、学術的にも精神的にも成長することができました。実習を行うにあたり、献体してくださった方並びにご遺族の方への場をお借りして感謝申し上げます。

解剖学実習で学んだこと

解剖学実習を通じて学んだことはとても多く、それは単に解剖学という医学の一分野に留まるものではなかったと思います。確かに実習を通じて解剖学の理解を深めることができましたが、それ以上に、これから医療人として学び生きていく覚悟を新たにすることができました。医学生私たちがこのような貴重な経験をすることができたのは、ひとえにご献体くださった方々、ご遺族の方々のご理解、ご協力のおかげです。この場を借りて深く感謝申し上げます。

私にとって解剖学実習は本当の意味で終わったわけではないと考えています。というのは、献体は「大学における解剖学の教育・研究に役立たせる」という目的が達せられて初めて意味を持つと思うからです。私たちは医学部の二年生なので、実際に医療の場に立つのは五年後になります。この実習を通じて学んだことを決して忘れずに、まずは自ら立派な一医療人となって、解剖学の深い理解に基づいた正しい医療の在り方を懸命に模索していきたいと思えます。ありがとうございます。

解剖実習を終えて

献体をしてくださった方々、及びそのご遺族の方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

医学生として医学を学ぶ上で、人体の構造について理解することは不可欠となります。しかし、講義や試験勉強といった座学で得られる理解と、実際にご遺体を解剖して得られた理解ではその深さが全く異なると感じました。座学で得られるものはあくまで知識でしかありませんでしたが、実習を通して実際に自分の手を動かすことでその知識を経験を交えたものに変えられ、この経験は必ずこれからの学習、医師として現場に出る際に大変役に立つと感じております。

実際の実習中はわからないことだらけでしたが、自分で調べ、班員と協力し、時には先生を頼って、解剖を行いました。それと同時に、献体して下さった方も自分たちに協力して下さいという思いを持ち続け、自分たちはできるだけ丁寧に解剖をすることでその気持ちにこたえられると思い、解剖を行っていました。このような心構えをこれからも持ち続けて、勉学に励んでいきたいと思えます。

改めまして、献体をしてくださった方に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

かけがえのない経験

まず、解剖実習を終えるにあたり、献体して下さった方に感謝の意を表したいと思えます。この実習は献体を希望して下さった方のご意向がなくては実現できないものでしたし、私たち医療者を目指す者にとってかけがえのない経験となりました。

初めて実習に臨む日、私はとても緊張していたことをよく覚えています。私たちとともに、献体された方の魂がそこにあるということを感じました。そして、授業で習った人体の構造について、実際のご遺体で観察させて頂けるということは本当にありがたいことだと感じました。医学は、私たち下級生の医学生にとってはまだまだ難解なもので、体の構造一つを理解するのにもひと苦労でした。そのような時、献体された方の志が、私たちの背中を押してくれました。献体された方の医学歯学のためになりたいという志を大切にしたいという思いから、勉強にも一層身が入りました。

私はいつか、献体して下さった方に受けた恩を、医師になって社会に還元したいと思えます。本当にありがとうございました。

解剖学実習を終えて

本実習はご遺体を解剖することを通し、人体の構造について知ることが主な目的であると思います。しかし、第一に私にとっては己の無知さについて痛感するばかりの実習でした。頭の中で構造についてわかっているつもりでも実際解剖を進めていくとなかなかそれらの構造が確認しにくいのです。では本実習の収穫はなかったのかと言われると決してそうではないです。まずこの無知さを知り、資料を読みこむ時間が生まれました。解剖に対し、より知的探究心をもって取り組むようになりました。そしてなにより将来、医師として人体を扱うことの重みを知りました。特にこのことについては本学の解剖学分野の教授も強調しており、実習を通し、学ぶことができました。ここで感じたことを忘れずに、今後の学習を進めていきたいです。

最後に献体してくださった方、そしてそのご遺族の方々に対し、敬意をもって深く感謝すると共に、今後の医学部での座学、及び実習に対しより一層の緊張感と知的探究心をもって取り組むことを誓います。

解剖実習を終えて

この度、六月～七月の間、計十三回もの解剖実習におけるご遺体の解剖を終えて、様々な感情が錯綜している。今でも心の中で刻み込まれていることは、解剖初日のことである。

実習が始まる数時間前から、「人を切る」といういまだかつて体験したことのない事象に対して、少なからず不安を抱いていた。同時に人体について実際の身体を用いて学べることに對して、ありがたさと嬉しみを感じていた。

実習が始まり、実際にご遺体に対面した時、今まで会話をしていた辺りは一瞬にして沈黙に包まれ、厳かな雰囲気解剖室全体に漂っていた。これから、実際に生きていた人を解剖するという事実に対して、初めは簡単には飲み込むことができなかった。

解剖を日に日に続けるにあたって、この初日に抱いた感情は別のものに変わっていったが、今こうして総括すると、初日の畏怖と感謝を忘れることなく、今後も勉強に自分なりに励むことを自分の中での使命にしていきたいと思った。最後に、ご献体をしてくださった方々とその遺族に心から感謝を申し上げたい。

解剖実習を通じて

この度の解剖実習を通じて、私が持っていた人体に関する知識が大きく覆されたということは貴重でしたが、それ以上に今後とるべき態度や医学に向かう姿勢を具体的に意識することができたということに感謝の念を表したいと思います。

ご遺体を解剖させていただくことに対して日々の黙祷の度に向き合うと、これまでの曖昧な姿勢を改める必要があることを痛感しました。また、知識の確認、学習という点においてこの解剖実習に勝るものはないだろうということも感じました。日々の講義や自己学習、つまり紙面上の知識と実習で目に映るものを照らし合わせると、ほとんどの部分でギャップが大きいことに気づかされ、同時にこの実習があることの意義を確認しました。

学生そしてその先の専門職としての態度、知識の両者に大きな影響を与えてくれたこの実習そのものに感謝し、実習のために献体してくださった方々に感謝します。

解剖実習を終えて

例年と違って、今年は二限から五限まで通して解剖をするという大変なスケジュールでしたが、終わってみるととてもあつという間で、とても充実したものでした。この解剖実習を通して座学で教わることのできないたくさんの方を学んだだけでなく、百聞は一見に如かずで、ご遺体を解剖して観察することで知識の定着につなげることができました。

人体解剖実習では教科書や図版をみながら遺体を解剖することで、図版との共通点や相違点を学ぶことができた。この経験が今後の臨床現場に大変に生きてくるのだらうと思いますし、かけがえのない人生を送って、医学の発展のために献体してくださった方のためにもこの実習から出来る限り多くのことを学習しなければいけないのだと痛切に感じています。

2ヶ月におよぶ解剖実習では毎回毎回新たな発見や感動がありました。献体してくださった方に感謝します。この経験を生かして、これからの医学の勉強を邁進していこうと思います。

人体解剖学実習を終えて

まず初めに、この度私たちのために献体してくださった方々、及びその御遺族の方々に、深く御礼申し上げます。

医学を学ぶ上で講義や勉強を通じて知識を身につけることは重要ですが、それだけでは深い理解にはつながりません。人体の立体的な構造を机上の勉強だけで把握するには限界があります。また、個人の人体構造は参考書等に乗っていない所謂「教科書的な」構造と一致しているとは限らず、参考書を用いた勉強では理解が一辺倒になりがちです。こういった座学の欠点を補完する意味で、解剖学実習は医学生にとって不可欠な学習課程といえます。解剖実習を通じてこれらの学びを得られたことは大変貴重で意義深い経験であり、ここで得られた「生きた知識」は将来私たちが医師として現場で働くうえで大変役立つものであると確信しております。

私たちはこれから先も医学生として勉強に励むこととなりますが、その根幹部分をなすのが今回の解剖学実習であると考えております。そのような意識をもちつつ、今後の学習にも責任感を持って日々精進していくつもりです。最後に、改めてこのような機会を与えてくださった方々に心より感謝申し上げます。

解剖実習を終えて

二か月を通して行われた今回の解剖実習を振り返ると、学びが多い非常に有意義な時間であったと感じます。

座学の授業や教科書だけでは身に着けることのできない人体の構造を自分の手で実際に解剖し、自分の目で確かめることでより深く理解できたと感じました。実際の人間の体は教科書通りではなく、一人ひとりで違う部分も多くありましたが、そのことは解剖実習の経験がなければ学べていなかったと思います。

また、今回の実習は医学生として初めての实習でした。私は医師という職業に感銘を受けて医学部に入学しましたが、これまでは教養、座学の授業がほとんどで、医師を目指しているという実感があまり持てずにいました。しかし、この実習で実際に御遺体を目の前にし、献体をしてくださった方への感謝と緊張感を胸にして解剖実習に臨んだことで、自分は医師を目指しているという自覚とそのため堅実に勉強を積み重ねなくてはという思いが強くなったように感じます。

最後になりましたが、献体をしてくださった方々、ご遺族の方々、そして私たち学生に解剖実習という貴重な学びの場を提供してくださったすべての方々に深く感謝を申し上げます。

人体解剖学実習を終えて

まずこの場をお借りして献体して下さった方とご遺族の方に御礼申し上げます。この人体解剖実習はとても貴重で重要な学習の機会であり、自分自身もこの実習を有意義なものに出来たと実感しています。

この実習は知識的にも精神的にも貴重な機会でした。普段の講義や教科書の勉強ももちろん重要なのですが、人体の構造はとても複雑で教科書だけでは理解しきれないものです。それ故に、この実習で自分の手や目で直接学べたことを嬉しく思います。また精神的にも、実際にご遺体を前にすることで講義だけでは意識しづらい医療者としての実感や覚悟を意識でき、とても重要な機会でした。

この実習を通して、ご遺体一人一人が少しずつ異なり、決して教科書通りではないことを強く実感しました。個人差があるということは講義や教科書から知識として得られても、実感することはできないことでありとても印象的でした。この経験から、将来医師として患者さんに接する際にも一人一人違うということを意識し、それぞれにあった治療が必要なのだと感じました。

最後になりますが、献体して下さった方の、ご冥福をお祈りします。

人体解剖実習を終えて

まず初めに、献体をしてくださった方及びそのご遺族の方々へ、深く感謝の意を表させていただきたいと思えます。

我々は最初に、座学を通して正常な人間の持つ人体の構造を学びます。この際に、教員による説明や教科書を駆使することで何とかそれを理解しようとしません。しかしながら人体とは我々の予想をはるかに超えた複雑さを持ち、時には破格（多様性）を持っているものです。これはとても座学で頭だけを動かし理解することができないものではありません。しかしながら、あろうことか私たちはこれを座学だけで理解した気になってしまいます。

そういった点で、今回、そんな甘い我々の妄想を打ち壊してくれました。そのうえで三次元的な人体の構造を示し、人体の神秘さで我々を魅了するという、とても言葉では言い尽くせないほどに価値を持った体験を提供してくれたと考えるております。

本実習を通して、理想の医者像というものがはっきりとしたうえ、そこに少しでも近づくことができたと感じております。微力ながらも将来の日本の医療に貢献することを約束し申し上げるのとともに、改めて献体して下さった方と、それを支えてくれた皆様には感謝申し上げます。

解剖学実習を終えて

解剖学実習は医師になるために医学部医学科に在籍し、卒業する過程で必ず通る道です。二年生になって実習の案内を受けるうちに、解剖実習へは先輩方や先生方は特に真剣に捉えて考えているということが分かってきました。さらに、解剖実習をするにあたって、教授達だけでなく、多くの献体をしてくださった方々のご協力が必要不可欠であるということを知りました。事前の説明で知っただけでなく、解剖実習をしていくうちに、自分が勉強出来ているのは献体をしてくださった方々のおかげであるということを非常に深く実感しました。解剖実習では、ご遺族の方々の期待にお応えすべく、予習復習や課題を丁寧に行い、非常に実りのある学びになりました。また、自分が将来多くの方々の命を預かることになる医師になるのだということを以前よりハッキリと肝に銘じました。

このように多くの方に協力していただいて自分が医者になるということを決して忘れることなく、自分も多くの患者さんに感謝される医師になろうと思います。最後になりますが、ご献体していただき、ありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

まず、人体解剖学実習を無事に終えられたことに関して献体して下さった方、並びに遺族の皆様へ感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

医学部に入る前に解剖実習の事を聞いた際に、医学は学びたいが、死ということにほとんど触れたことのない自分が解剖なんてできるのだろうかということ、不安になったことを覚えています。実際に医学部に入り解剖実習を本当に行うことになり、実習室に入る前はとても緊張しました。しかし、実際に献体を目の前にすると、不安よりも献体して下さったことに失礼がないようにそしてしっかりと立てるためにしっかりとやろうという責任感が勝りました。

そして二ヶ月間の解剖実習では座学だけでは学べなかったであろうことを実際に目にし、触れることで学ぶことが出来ました。また、これから医者になると多くの死に触れることになるとは思いますが、そのような職業につくという自覚と覚悟を持つことが出来ました。

これもすべて献体して下さった方がいなければ出来ない体験であり、私たちのような医学生のために献体をしてくださり本当にありがとうございました。

解剖学実習を終えて

まず初めに、新型コロナウイルスの蔓延という未曾有の状況の中で、解剖学実習という貴重な機会をありがとうございました。献体をしてくださった方々、そしてそのご遺族の皆様、先生方や関係者の皆様に心より感謝いたします。

私は当初、解剖学実習に対しての不安、そして自分が将来医師として、大切な患者様の命にかかわることに対しての不安を抱いていました。人はひとりひとり異なった人生を歩んできていて、同じ人などいないのに、それを自分は背負えるのだろうか。

しかし、今解剖を終えて感じることは、じぶんができる最大限の努力をもって、できる限りの学びを積み重ねていくしかないのだ、ということです。ご遺体はたくさんのことが教科書や図版で学んだ通りで、また、たくさんのことが、学んだこととは異なっていました。私はそのことを目の当たりにして、「学んだことと異なること」を恐れるのではなく、「学んだこと」が異なり得るのだと理解したうえで、「学んでないことを無くしていく」ことが医師の生涯の目標であると感じました。

この数か月間私たちは本当に大きな感動と学びを得ることができました。改めて、感謝申し上げます。

解剖学実習を終えて

私は、医学生になったときから、この解剖実習を特別なものと捉えてきた。解剖実習は、私たちが医学を学び始めてから最初に実際の人の身体を観察する機会であり、ここで得た経験は、これから医学を学んでいく上での基盤となるであろうからだ。加えて、実際に人体の構造を観察することで、私たちは座学で得た知識を実際に観察したものとして目に焼き付けておくことができる。知識面でも、解剖実習での経験は、医学生として、更には医師として自らを磨いていく上での根本となるものなのだ。

私は解剖実習に際して、実習でのこういった経験に非常に大きな興味を持つと同時に、私たちにこのような機会を提供して下さった、献体して下さった方々が、どのような気持ちでご遺体を提供して下さったのかと考えた。自らのご遺体を解剖実習や研究などのために提供する、そのことで医学がより発展していったほしい。そう考えて、献体して下さったのではないか。そのことに思い至ったとき、私は将来医師になる身として、医学の発展に力を尽くす責任を感じた。

私は、献体して下さい下さった方々にご遺族への感謝の気持ちを胸に、これからも精進していきたいと思う。

解剖実習を終えて

私は、実習が始める前非常に不安な気持ちでした。それはなぜかというところ、ご遺体を解剖する姿が想像できなく、またご遺体と向き合う勇気がなかったからです。しかしいざ実習が始まってみると恐怖心はなくなりました。それは、恐怖心より人間の体の構造を知りたいという気持ちの方が強くなったからです。座学を受けるだけでは理解できなかったことでも、実習をすることで理解できたことも多く非常に実りのある実習になりました。そのため実習中は献体してくださった方に対して常に敬意を払うとともに、実習前の黙とうでは、最大限の感謝とともに実習を必ず実りのあるものにすることを約束させていただきました。最後になりましたが、献体してくださった方、そしてご遺族の方、私たちが実習できる環境を整えてくださった方に最大限の御礼を申し上げます。これから将来医師となって皆さんの、そして社会の役に立てるよう、医学生として最大限の努力をし続けていきたいと思えます。

人体解剖学実習を終えて

まず初めに、献体をしてくださった方々及びご遺族の方々に、このような貴重な機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。実習を行うのが困難な状況で実習をさせていただけるのは、本当に恵まれたことだと思います。

実習の前から解剖学の授業で人体の構造を色々と学ぶ機会があったのですが、やはり実習は授業と大きく異なりました。今年度は例年と異なり、新型コロナウイルスの影響もあって、実習の時間も限られたものとなりましたが、授業の復讐や実習書を読み込んで時間の限り学ぶことができたと感じました。特に人体の構造に関しては教科書にあるより実際の構造は複雑で、人それぞれかなり異なっているのだということにとっても驚きましたし、実習でしか得ることのできない経験と知識を得ることができたと思います。

最後に、今後も多くのことを大学で学んでいきますが、この実習で学んだことが必ず糧になると思います。ここで経験したことに対する感謝を忘れずに、立派な医師になるために勉強に励んでいきたいと思っています。

人体解剖学実習を終えて

解剖学実習にご協力していただいた献体してくださった方並びに、ご遺族の皆さま、献体の会の皆さまに心からの感謝を申し上げます。本実習の実現、そして自分が医学生として存分に学べる恵まれた環境は、ひとえに皆さまの協力があったからこそであり、感謝の気持ちでいっぱいです。医・歯学生にとってこの解剖学実習は人体の構造を自分の目で捉え、具体的なイメージを養う点で非常に重要な科目です。事実、講義や座学だけで人体の構造を把握することは難しく、実際に手を動かして確認することは自分にとっては解剖学を学ぶうえで大変勉強になりました。

本実習の意義は、単に解剖学として人体の構造等を把握することのみならず、実際に一人の「おからだ」と約二か月間しっかりと向き合う点で、将来医師になるうえで欠かせない本当に貴重な機会であったと思っております。自分はそもそも生身の人に向き合う経験に乏しく、改めてこの医師という人の命を扱う職業の重みについて再確認する次第でした。少しでも皆さまの協力を医師として人類に還元できるようにこの経験を胸に刻みながら、日々高い意識をもって医学と向き合い、勉学に励んでいきたいと思っております。

人体解剖学実習を終えて

第一に、今後の医学の発展のために献体するという決断をしてくださった皆様、その御意思を尊重してくださった御遺族の皆様、感謝申し上げます。

解剖実習は六月から始まり、約二ヶ月間行われました。今年度は新型コロナウイルスの影響で例年とは異なるスケジュールでしたが、実習内容を細かく予習してから臨むことで、座学だけでは分からない実際の人体の構造を詳細かつ間近に知ることができました。

実習期間は瞬く間に過ぎてしまいましたが、毎回の実習で得られる情報量は膨大で、非常に濃厚な時間を過ごしました。献体してくださった方々がいらっしやっただからこそ、人体の複雑さ、精密さ、脆さ、そして神秘を身をもって体感することができました。改めて、人体に対する畏敬の念に打たれ、これから医師として向き合っていく世界の広さを知ったように思います。

献体してくださった方々やその御遺族の方々の思いを考えると、今回の実習で得た全てを今後の医師としての活動に活かしていく、という使命感が、自然に湧いてきます。医師を目指す者としての自覚も得た実習でした。

このような貴重な機会を与えて頂き、本当にありがとうございます。

人体解剖学実習を通じて

私は、解剖学実習を通じてたくさん得るものがあつた。教科書や講義による学習では得ることのできない貴重な経験が出来たと思う。

人の身体は、生きるために複雑な構造がいくつも組み合わされてできているが、その理解には、実際の大きさやその形を目にして直に感じることが重要だと思つた。教科書に載っている図では、人の様々な構造は、書面の都合上、縮小されていたり、省略されていたりする。解剖学実習を通じて得た知識や実感は、実習でしか得られないものであり、人体の構造に関する理解がより深められたと感じている。

加えて今回の解剖学実習を通じて、医師を志しているという自覚が一層強まったように感じる。献体してくださった方、及びそのご遺族の方々の医学の発展に対する期待と強い意志を感じ、その道を志す一人として、自分の責務を果たしたと思つた。医学生として、これからも一層勉学に励み、社会に貢献出来る医師になりたいと思う。

最後に、このような貴重な経験をさせていただいた方とそのご遺族に感謝申し上げます。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

解剖実習を終えた今、医学を学び始めたばかりの私たちが、この実習を行う意味を深く理解できたと感じています。それは、人体構造について学ぶためのものだけでなく、人の命と健康に関わる医師になる者としての自覚と覚悟を持っための、大切な時間であったと感じました。

百聞は一見に如かず、という言葉の通り、事前に講義と教科書で様々な構造物を学ぶものの、実際に手で触れて目で確かめることに勝るものはないと感じました。教科書通りのことや、例外的なことも全て含めて、実習で得られた知識は自らの中に深く根付いていくように感じました。また、回を重ねるごとに、人体の精巧さと神秘さに感嘆して、もっと知りたいという願望と、もっと学ばなければいけないという良き焦りが増していき、今後の学びの原動力になりました。一方、実習でご遺体に触れ、お身体を通してその人生に思いを馳せたことで、自分はその健康、命、そして人生に関わるような大切な責務を持つ医師になるのだ、という意識を強く持つようになりました。

最後に、献体をしてくださった方々のご遺族の皆様、このような貴重な学びの機会を頂きましたことを、心より深く御礼を申し上げます。

解剖学実習を終えて

この度は解剖学実習という大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。ご
ざいます。

実習開始の当初はコロナウイルスが今より大幅に警戒されている時期であり、
家族や友達が外出を控えている中、自分だけ登校しておりました。それほど、解
剖実習は医学生にとって大切な教育であると思う大学の先生方の熱心な思いを
感じ取れました。

感染症拡散防止のため、今年度の実習は大幅にペースを早めて行われ、本来は
三日分の実習をかけて行う実習を一日に詰め込む程の忙しいスケジュールでし
た。

窮屈なスケジュールではありませんでしたが、献体をしてくださった方やそのご遺
族のおかげで、しっかり学習をすることができました。班員としっかり協力する
ことができ、解剖実習を通じて、どんどん人体の構造と仕組みに対して自分の好
奇心が増していくことを感じることができました。今回の解剖学実習で得た知
識や経験をしっかりと自分の糧にしたいと思います。

人体解剖学実習で得たもの

まず献体してくださった方とご遺族の方に感謝申し上げます。

私はこの実習のお陰で多くのことを学ばせて頂きました。無論、解剖学的な知識や医学的な知識ということもありますが、それ以上にこの実習を通してしか得ることが出来ないであろう心構えのようなものも学べたと思っています。というのも、この実習を通して私は命というものにかつてないほど長くそして深く向き合ったからです。残念ながらこの経験が私の中に残っていたものは言葉では表すことが出来ない類のものです。過去の自分にくら言葉を尽くしても、今の私が思っていることを伝えることはできないでしょう。だからこそ、この実習を経験できたことは私にとってかけがえのない財産です。そして、この言葉では表すことのできないこの経験は将来、医師として人の命というものに向き合っていくときに必須となるものだとは確信しています。

私にとって医師という一つの到達点はまだまだ先のものです。これから学ばなくてはならないことも経験しなくてはならないことも枚挙に暇がありません。ですがこの実習を通して、私は初めて何か一歩進んだような気がしています。最後に改めて本当にありがとうございました。

解剖実習で得た決意

解剖実習が始まる前は、不安や緊張がありつつも、自分がいよいよ医師になるための一步を踏み出せるのだ、という喜びも同時に感じていました。そして、約二か月にわたる解剖実習を通して、その喜びは人のいのちを扱う医師にこれか
らなることの覚悟とこれから邁進する決意と変わっていきました。

解剖実習では、教科書の図だけでは決して学ぶことができない、人体の構造と機能をご遺体から学ばせていただき、それと同時に、人体の構造の複雑さも感じました。また、人によって人体の構造は多少違うことに身をもって気づかされ、よく言われる「病気を診るのではなく『その人自身』を診る」ことの大切さを改めて感じられました。医学は一筋縄では行かず、医師はひとりひとりの患者さんにしつかりと向き合う職業であることを実感いたしました。

私たち医学生のためにご献体をしてくださった方、またご遺体の献体を同意してくださったご遺族の方のおかげでこのような貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございます。感謝の気持ちを決して忘れることなく、これから良き医療従事者を目指して、勉学にますます励み、教養や感性を磨いていきたいと思います。

解剖実習を終えて

初めに、献体してくださった方、およびご遺族の方々に心より感謝申し上げます。

解剖実習初日、初めてご遺体と対面した際の緊張感を忘れることはありません。そしてその場で、献体してくださった方への最大限の感謝として、この実習で可能な限りの知識を吸収しようと強く思いました。

実習を進めていく中で実感したのが、座学のみでは学べないことが山ほどあるということです。実際の人体の構造は簡略化された本や実習書の図とは異なる。それでも班の仲間との協力や教員の方々の指導の下、一つ一つの複雑な構造に対して理解を深めていくことができました。また、自分の考えで人の体にメスを入れるという初めての経験は、自分が数年後には医師となって人の命を預かるのだという確かな自覚をもたらしてくれました。

最後に、今回の実習に協力して下さった方々に重ねて御礼申し上げます。この実習で得られた全ての知識、経験、そして意識を、これからの勉学および医療従事者としての人生に生かしていく所存です。

解剖実習を終えて

初めに、医学教育の発展のために献体してくださった方々や遺族の方々に、この貴重な機会をくださったことに対して感謝の意を申し上げたいと思います。

私は一年生の時に翌年解剖実習があるということを知り、自分に果たしてできるのだろうかという不安感でいっぱいでした。しかし、いざ実習が始まりご遺体と対面した時に身の引き締まる思いがしました。これはただの実習ではなく、あらゆる方々の想いの上に成り立っているものだということを改めて実感しました。実習では少しでも学びを多くするために事前にしっかりと予習をし、何を重点的に見させていただければいいのかを考えてから臨むようにしていました。決して教科書通りではない人体の構造を見ながら、医者としてあらゆる患者さんに対応できるように知識を深めることの大切さに気づけました。

実習で学んだことを胸に刻んで、社会に貢献できるような医者になれるようにこれから先も医学の勉強に励みたいと思います。今回は非常に貴重な経験をさせていただいて、本当にありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

二カ月にわたり続いた解剖学実習が終わりました。ひたすら人体について学び、実習に向き合った二カ月でした。初めて解剖学実習室に入った日は遠い過去のように感じられますが、それから実習終了日まで学んだ多くのことはいずれも鮮明に記憶しています。

医学生として、人体解剖学の実習に取り組むというのはとても意義のあることなのだとよくわかりました。机に向き合い詰め込まれた知識とは異なり、責任感と緊張感のもと実際の経験によって得られた知識は強い印象となって私の中に刻み込まれているように思います。医学というのは紙面上のものではなく、人に向き合うもの、人のためにあるものだと改めて実感しました。医学に携わるものとしてこの感覚を忘れることなく、これからも精進していかなければならないと感じています。

私たち学生の教育のために献体してくださった方々、そしてご遺族の皆さまに心より感謝申し上げます。私たちが勉学に励めること自体、多くの方々に支えられているという事実を今回改めて認識することができました。本当にありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

始めに、献体してくださった方、ご遺族の方に深く感謝申し上げます。

高校生の時、医学部のオープンキャンパスでご遺体を目にしたことがあったので、解剖実習の心構えは出来ていたつもりでいました。しかし、実際に実習が始まってみると、メスで傷をつけることに非常に抵抗があり、非常に緊張しました。改めて、医師になる覚悟、医師として患者の身体に介入することへの責任を考えさせられました。

次第に回数を重ねると、教科書では人の身体の構造が単純化して説明されていることを実感しました。どんなに予習して知識を学んでも、自分のイメージと実際の様子との差異があり、実際にご遺体を解剖しなければ気づくことの出来なかったことが沢山ありました。約二か月という短い期間ではありましたが、解剖実習は一回一回が非常に濃密で、学ぶことばかりの時間でした。

今後臨床医学を学んでいくにあたり、今回の解剖実習から受けた影響は非常に大きいです。注射一つとっても、全く単純に行えるものではないと改めて思いました。医療行為は大きく責任を伴うものであることを常に意識して、これからも精進してまいりたいと思います。

人体解剖学実習を終えて

初めに、献体をしてくださった方々ならびにそのご遺族の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

人体解剖学実習においては、普段の授業では学ぶことの難しい、人体の詳細な構造を学ぶことができました。また、これまでに学んだことを応用し実際に人体に触れるというものはとても貴重な体験でした。この実習において私は、人体の構造への理解を深めることが出来たのはもちろんのこと、人が複雑で絶妙な構造の上に成り立つとてもかけがえのない存在であるということを実感しました。特に、それぞれのご遺体には様々な点で個人差があり、人体の構造はこんなにも人によって違うのか、と感銘を受けたことをよく覚えています。

この経験は、将来私が医師になった際に、技術的な面でも倫理観の面でも大いに役立つと考えています。私が実際に患者さんの目の前に立ったときに、この実習において学ばせて頂いた知識や技術、倫理観を活かして診療や治療をできるように、これからも精進してまいります。

最後にもう一度、献体をしてくださった方々ならびにそのご遺族の皆様には、感謝の念を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

解剖学実習を終えて

初めてご遺体を目の前にしたときの緊張感は今でも忘れがたく、医学とは人と向き合う学問であることを再認識し、身の引き締まる思いでした。また解剖学実習に先立って紙面上で人体の構造を学んでいましたが、いざ実際に確かめていくと、その構造は必ずしも教科書の通りではないこと、人によって全く異なること、そして非常に精巧で傷つきやすいものであることが分かりました。改めて人体の奥深さを実感し、生きていること的神秘や尊さに胸を打たれました。そして、一人ひとりの命と接する医師の仕事がいかに難しく、重大な責任を負うものであるか考えさせられました。解剖学実習で得た経験は、今後の勉学や医師としての仕事、自分自身の生涯においてかけがえない財産です。

これほど貴重な経験を与えてくださり、献体してくださった方、ご遺族の方には感謝してもしきれません。ご自身の身体を医学生のために提供するという大きな決断は、ひとえに今後の医学の発展のためであり、将来の医療を担う者としての責任を痛感しております。献体へのご理解及びご協力いただいた方々の期待に応えられるよう決意を新たにし、今後も精進していききたいと思います。

実習を終えて

実習前には人間の体がどのように成り立っているのかについて様々な機会を考えてきましたが、そのメカニズムはわかってもらい、やはり実際にどこにあるのか、どのようにつながっているのかなど具体的なことは何もわからないというのが実際のところでした。そのような中で毎回の実習ではその日の目標を達成できるように、書籍とも見比べながらできる限り多くのことが吸収できるようにと努力しました。また、実習では手技なども身に付けることができ、これも私にとっては初めての経験でした。これから五年間、効果的に各科目を学ぶためには体のどの部位でどのような生命の維持の役割を果たしているかということを理解しているということは非常に大切なことです。医学の発展を願って私たちのような学生にご遺体を解剖させていただき、献体してくださった方々、そしてそのご遺族の方々には感謝の言葉しかありません。皆さまの期待に少しでも応えられようという医師となれるよう日々、学習していきたいと思っています。

解剖学実習を終えて

はじめに、献体してくださった方、ご遺族の皆様には深く感謝申し上げます。

人体解剖学実習では、自分の目で人体の構造を観察し、自らの手で臓器や筋肉、骨などに触れることができました。教科書だけでは分からない細かい部分や位置関係、立体構造などの深い理解につながったと思います。また、全てが教科書通りの構造とは限らないことや、多様性が実際に存在することを目の当たりにし、改めて身体の複雑さを実感する機会でもありました。将来医師になった際には、私の接する方が一人一人違うことはもちろんのこと、様々な可能性を考えながら、それぞれの方に合った医療を提供していくことが大切であると考えます。そのため、今回実際に違いや人体の複雑さを観察できたことを、今後医学を学ぶ際にも医師になった後にも、活かしていきたいと思えます。

最後に、貴重な経験をさせて頂いたことに感謝するとともに、社会に貢献できるような医師になれるよう、より一層努力して参ります。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

人体解剖実習を終えて、一番に感じることは、この実習がとても学びの多い、充実したものになったということです。私たちは普段の講義で教科書や図版によって、多くの人体構造を学びますが、実際に遺体を解剖させていただくということは実際のご遺体に触れることができる非常に貴重な機会でした。実際のご遺体は、様々な相違点があり、この解剖実習で見たものは、将来医師として現場に出たとき、必ず役に立つものだと思えます。

しかし、人体解剖実習を通して医学的な知識に対する学び以上に、命の重みを改めて感じることができました。

医師になるにあたって、豊富な医学知識を身につけることはもちろん大切ですが、それ以上に患者一人一人と向き合うことが大切だと思います。この気持ちを忘れず、立派な医師になり、献体してくださった方やご遺族のみなさまに恩返しができるように精進していきたいです。

献体してくださった方ならびにご遺族のみなさまに改めて感謝の気持ちをお伝えしたいです。

学びへの感謝

私は解剖学の授業、机上で学んだ構造をご遺体の解剖を行うことで実際に目にして、確認することができたので、実感を伴った学びができたように感じました。また、ご遺体と向き合うことで、献体をしてくださった方の深いご厚意を実感し、私たち医学生はこの恩を忘れずに立派な医師になろうという決意をしました。このような学びの機会を私たちに与えてくれた、献体をしてくださった方、ご遺族の方には深く感謝を申し上げます。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年と比べて、対応しにくいことも多く、感染対策を行ったうえで、実習を行いました。しかし、解剖学実習はこのような状況でも、医者となるには欠かせない経験だと感じました。現在、新型コロナウイルスの影響で学びの機会を奪われてしまった人は多くいますが、そんな中でも学びを継続出来ていることにも、感謝しています。

今後、さらに専門科目を学んでいきますが、懸命に取り組み各個人が向上を目指すことで、恩返しをしていきたいと思えます。改めて、献体をしてくださった方、ご遺族の方深い感謝を申し上げます。

人体解剖学実習を終えて

この度、解剖実習を無事終了することができたことについて、献体をしてくださった方々、その遺族の皆様、ご尽力いただきました関係者のみなさまおよび先生方に心より感謝申し上げます。人体の構造に関して、ただ知識を得るだけであれば講義や資料を通して普段から可能です。しかし、実際に実物に触れ、観察させていただくという機会は非常に貴重であり、この人体解剖学実習を通して、多くの重要なことを学ぶことができました。

この実習を通して学んだ最も重要なこととして、参考書に載っていることは絶対ではなく、一人として全く同じ体をしていることはないと言うことを知識としてではなく実感として知ることができたということです。これをしっかりと理解することで、将来医師として働くうえで、病気ではなく患者さん一人一人としっかりと向き合うことの重要性を強く感じました。

これから様々な新しい知識を学び、また実習なども行い、一歩ずつ医師に近づいていきますが、この際この実習で得た経験が常に土台となると思います。改めてまして、そのような機会を与えていただいたことについて、献体をしてくださった方とご遺族の方々に、深い感謝を申し上げます。

人体解剖学実習を終えて

実習が始まる前まで、私は人体解剖学実習を医学生として経験しなければならない厳しい関門のようにとらえていました。しかし、初めてご遺体と向き合った時、自分は遺体を解剖するというとても貴重な機会を与えられたのだと感じました。そして、できる限り多くのことを実習を通して学び、そしてそれを今後学習していくことに昇華していかなければならないと思いました。実習を終えてみると、教科書には載っていないことや自分の手で解剖をしないとわからないことなど、多くのことを得られたと実感しました。また、医療に携わる者として、これから学び、身につけていく医学の知識、倫理観の大きさを改めて感じました。この度の実習が解剖学の知識を養い、人体の構造を理解するうえでの一助となったことは紛れもない事実です。同時に、いずれ他人の命を預けられる者としての自覚と、負うべき責任の重さに気づかされる機会となりました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった、献体してくださった方、そしてご遺族の方々に心からの感謝を申し上げます。

解剖実習を終えて

解剖学実習を前にして、人体にメスを入れるという経験を一学生という立場で行うことに対して大きな不安を抱えていました。まず、実際に実習を開始してみても、人体の構造の複雑さ、実習書、基本書に書かれている解剖図はほんの一例に過ぎないことを知りました。また、ご遺体と比較して臓器の大きさ、動脈、静脈、神経の走行に予想以上に大きな相違があることに驚きました。今後、医療の現場に出て行った際も、実習に際して抱いた緊張感をもって臨みたいと存じます。そして、自分のこれまでの学習が多くの方々の協力のもと成り立っているということに対して身を引き締めて研鑽に励んでいく所存です。

昨今の新型コロナウイルスの影響で解剖実習を中止する大学がある状況で、解剖実習という貴重な経験を行うことができたことは非常に恵まれていると感じております。最後になりますが、解剖実習を無事終了することができたことについて、献体にご協力くださった方々、またそのご遺族の皆様にご心より感謝申し上げます。重ねて、ご尽力いただきました関係者の皆様、先生方、共に協力し合い学習を進めた同期たち本当にありがとうございました。

解剖実習を終えて

解剖実習の前後で自分を振り返ってみると、様々な側面から成長させていたのだいたなと思います。

まず第一に、解剖実習を通して、医学生としての責任感をより一層意識できるようになりました。解剖学の実習が始まるまでは、二年から本格的に医学の勉強が始まったとはいえ、全て座学でした。そのため、専門的な知識が付き始めた一方で、まだいのちを取り扱う職につこうとしているという実感があまり湧いていませんでした。しかし、解剖実習で実際の人の体を目の当たりにし、ご遺体の解剖を進めていく過程で、医学生として人のいのちを扱うことへの責任が自然と意識されました。今後の学習は、この責任感を胸により真剣に取り組もうと思えました。

第二に、解剖学の知識が着実に定着してきたなという実感もあります。ご遺体を解剖した際、予習をしても解剖学の知識のどこに対応するのか分からない部分が多くありました。しかし、それ以外の部分におきましては、これまで座学の授業で学んできたことがより明確に理解できるようになったと自信をもって言えます。

献体してくださった方は、あらゆる側面から私を成長させてくれました。本当にありがとうございます。

人体解剖学実習を終えて

私たちは、解剖実習を通して、実際にご遺体の解剖を行うことでしか得られない多くのものを学びました。

まず、人体の構造や機能についての理解が一段と深まりました。教科書や講義資料を見て理解した気になっていましたが、実際に見ることで細かい位置関係を掴むことができました。また、教科書と全く同じ構造となる人がいないということも実感しました。それぞれが個性を持っているという認識は、将来医師となつてからも大切にしていきたいです。

そして何より、いのちの重みを実感することができました。「命は大切なものだ」というのは小さい頃から習ってきたことですが、長い人生を終えたご遺体と向き合うことで、真の重みを知ることができました。ご遺体の解剖は、将来人々の命を救う医師になる医学生だからこそ許可されている行為です。解剖を行うことで、私はこれから命を預かる医師になるのだ、という実感や覚悟を得ると同時に、一人一人の患者さんには、それぞれ異なる人生が存在し、その命は一つ一つ特別な重みを持つということを感じました。

最後に、このような機会を私たちに与えてくださった、献体をしてくださった方とご遺族の方々に深く感謝いたします。

人体解剖学実習を終えて

この感想文を始めるにあたり、まず献体してくださった方やそのご遺族に対し、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の解剖実習で献体してくださった方のご遺体を解剖していく中で、私は人体の構造を深く知る機会を得ました。教科書や講義で習った内容との相違点を自ら手を動かすことで発見する、という過程を通じて学ばせていただいたことは、将来私が医師となって現場に出た際、大変役に立つものであると確信しています。同時に、将来医師として人の命を預かることになるということの重みもこの実習を通して身をもって学ぶことができました。私は、医師という職業に憧れこそ抱いていたものの、その職業に対し明確なイメージを持てぬままにいました。しかし、今回の実習を通じ、医師として働くとはどういうことかというイメージを自分のなかで持つことができました。

実際医師になるために、そして医師になっただけから多くのことを学びます。その際には、今回の実習で学ばせていただいたことや感謝を胸に精進していきたいと思います。最後に、献体してくださった方やそのご遺族に対し、重ねて心から感謝申し上げます。

人体解剖学実習を通じて得たもの

最初に、献体してくださった方々、及びご遺族の皆様にご心より感謝申し上げます。

解剖学実習を通じて教科書の図と実際の身体では大きく異なることを実感せざるを得ませんでした。教科書は分かりやすさを優先して省略している部分が多く、また身体の構造には個人差があることもあって、教科書の知識だけでは通用しないことが多かったです。この実習で、医療における身体への関わり方について考える手掛かりとなる経験ができたと思います。これに伴って、今後の学習の仕方を考え直す必要があると気付かされました。専門的な学習の比較的早い時期にこのことを実感できたことは非常に有難いことです。

また、私は自分自身が人を解剖したことに対する責任を負うことができるのか、という不安を感じています。これを動機として、責任を果たすべくより良い医療を提供するためにさらに努力します。

解剖学的知見に加え、今後の指針とその動機づけを得られたのは献体してくださった方々のご厚意あってのものだと思います。重ねて御礼申し上げます。

覚悟

実習が始まる前に、担当の先生からこんな言葉を貰いました。

「この実習を通して、将来自分は医師になるのだ、という自覚が芽生え、真面目に医学に取り組むようになる人が多い」

私はあくまでも授業の一環であるし、医学部に入った時点で覚悟などどうにできている、とその言葉をあまり本気で受け取りませんでした。いざ実習の初日、実習台の上のご遺体を最初に目にした時、その考えが変わりました。

「ああ、この目の前で横たわっている方は、亡くなっているんだ。」

その時から、色々なことに思いを巡らせるようになりました。この方は生前はどんな方だったのか、ご遺族の方々は一体どのような気持ちなのか、「生きる」、

「死ぬ」とは一体なんなのか。そのようなことで頭がいっぱいでした。そして、ある時ふと気がつきました。このようなことを考えることこそが、「命を扱う」という職に就くための第一歩ではないのか、と。

献体してくださった方、ご遺族の方々への感謝の気持ちを忘れることなく、命を救うという覚悟をもって日々の勉学に励みます。

解剖実習を通して学んだこと

私は解剖実習を通して「理解していないことを見ることはできない」ということを学んだ。実際に解剖するご遺体は、教科書で見える図のように色分けされていたり単純化されているわけではなく、初回の実習で途方に暮れて質問した先生に、この部分はこの構造だ、と説明されてもはつきりとわからなかった。そこで気づいたことは、頭の中でしっかりとイメージをつかんだうえで解剖に臨まなければ、それはまったく学びにならないということだった。

そのことに気付いて以降、私は解剖学の勉強をする際には、実際にこの構造を特定するにはどのような視点が必要か、ということを念頭に置いて学習し、実習に臨んだ。その結果、その構造が視覚的にはつきり見えなくとも、周りの部分との関係性などから、論理的にご遺体を見ることができた。

このように、座学から実学への転換として、解剖実習は非常に有意義なものであった。献体してくださった方とご遺族に感謝し、以降の医学の学習に臨む足掛かりとしていきたい。

解剖実習を終えて

初めに献体をしてくださった方、ご遺族の方々、そばで見守り指導して下さいました先生方に深く感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染が心配されるなか、例年と異なるスケジュールを組み日々心配りして下さいました先生方に支えられ、解剖実習を無事終えることができました。

実習室でご遺体を前にした時、故人の生前の決意に思いを馳せると同時に、学生の使命の重みを感じ胸がつぶれる思いがしました。実習が始まると、座学で学んだ知識を応用する難しさは想像をはるかに超えていたことに加え、限られた時間で多くのことを学ばなければならない難しさがありました。そのため、実習後に反省点が次々と思えば返されつらく投げ出したいような気持ちにかられる日も少なくありませんでした。しかし今振り返ると、ときに昼食の時間まで惜しみ仲間と必死に取り組んだ長時間の解剖はどの一日をとっても学びが得られなかった日はなく、特に人体構造の差異・多様さを知り人間と医学の奥深さを感じられたことは、医師を志す私たちにとってかけがえのない経験だったのでないかと感じます。

最後に、このような気持ちを忘れず、これからも環境に感謝しつつ医学の勉強に励んでまいりたいと思います。

解剖実習を終えて

解剖実習を経て、私は医学生としての自覚が以前よりもはっきりしたように思います。献体してくださった方々のご遺族の方々に感謝し、また、故人のご冥福をお祈りする気持ちで一杯です。

やはり初めは解剖と並んで学びを得ることの難しさを感じましたが、少しずつ座学での学習とリンクさせることができました。またご遺体と向き合うことで、人間の身体の複雑さ・精緻さを感じ、人体の臓器の形態をダイナミックに捉える学問である解剖学が、生理学などで学ぶ理論的な裏付けに覆われていることに気づき感動いたしました。この先我々が医師を目指す上で、今回の解剖学実習は間違いなくかけがえのない貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださった方々に感謝の心を抱きながら、今後も医学に精進いたしたいと考えております。

人体解剖学実習を通して

この度の実習は献体してくださった方々の思いにより行うことができ、とても実りのあるものになりました。ご遺体を提供していただき、感謝の念が堪えません。

COVID-19の影響もありましたが、教員方の徹底した指導により感染リスクも抑え行うことが出来ました。教員の方々へも、大変感謝しております。

解剖学実習では、多くのことを体験し、様々なことを感じました。その中で一番印象に残っていることは、人体がいかに力強いのかということでした。私は人の体表を見ただけでは、体の仕組みについてごく一部についてしか想像できませんでした。ですが、実習の中で皆目見当のつかなかった、講義で聞いた机上の空論のような仕組みが浮き彫りになって観察でき、人はやはり、ある仕組みの上で盤石に機能しているということを感じさせられました。私の脳に焼き付いた鮮明な人体の立体構造は今後医学の道を学ぶにあたり、大きな糧となります。

私は東京医科歯科大学に入学し、今回のとても有意義な体験が出来たことに對して、もう一度も申し上げますが感謝の念が堪えません。

次世代の医師として活躍できるように学びをつづけいきます。

人体解剖実習を終えて

献体してくださった方、ご遺族の方々に深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私たちは医学を学ぶ基礎として人体の正常な構造について学びます。もちろん教科書に書かれていることを理解し、覚えることは大事です。今回の人体解剖実習を通して教科書以上のことを学び、感じることができました。実際に観察することで教科書の写真や図を見ただけでは想像しづらい構造を理解することが出来ました。また教科書とは違う構造を観察することが出来ました。これだけでも解剖実習を行うことができ、本当に良かったと感謝しかありません。しかしそれ以上に解剖実習で得られたのが将来への覚悟です。ご献体をしてくださる方がいてそのおかげで私たちは医学を学べ、医師への道を進むことができます。だからこそ人に返せるように医師にならなければいけない、なりたいと強く感じました。

医師になるまでにはまだまだ学ばなければいけないことばかりでこの先も長い道のりが待っています。今回の解剖で感じたことを胸に刻みこれからも学び続けます。そしていつか必ず一人前の医師になり多くの命を救いたいと思います。

解剖実習を終えて

私たち医学生のために献体してくださった方々、そしてご遺族の方々に、心より感謝申し上げます。ご遺体を解剖するという実習は私たちにとって非常に重要でありなくてはならない学習事項であり、それには献体してくださった方々とそのご遺族の方々のご理解とご協力があつてこそ成り立つことです。この実習を通して私は、人体の構造の緻密さと大胆さを身をもって確認することができました。また、この実習は、将来実際に患者さんたちの身体を責任をもって扱うことになる人間としての自覚を、私たちに与えたと思います。

本実習で感じた感動と人体に対する畏怖の念は将来医師として働く際にも決して忘れられるものではなく、本当に素晴らしい経験となりました。それだけに、献体してくださった方のご理解の深さ、そして私たち医学生へのご協力に対するお思いがひしひしと伝わりました。私たちの人体解剖実習のために協力してくださり、誠にありがとうございます。改めてお礼申し上げます。

人体解剖実習を通して

二年生になって医学をまなび始めた段階で本物の人体の構造、命の奇跡を自分の目で学べたことによって自分の意識が大きく変わりました。実習中ふと解剖している方がどのような人生を送ってきたのかを考えることができました。もちろん自分で想像しているだけで本当のところはわかりません。しかしながら、確かなことは自分と同じように生まれ自分と同じように生きてきたということです。当たり前のことかもしれませんが、当たり前だからこそあまりわかっていませんでした。解剖を通してこの命の重さをひしひしと実感できました。

またご遺体の解剖を通して、いかに教科書と実物の構造が違っているかがわかりました。この違いは教科書の勉強を通してでは学べなかったことです。教科書ほど実際は単純ではなく、一目でわかるものではありませんでした。そんなこんなで苦労しているうちに、実習が終わるところには座学で習った知識と実習で得た知識がつながっていたのがとてもよくわかりました。

この経験を生かしてこれからもより一層、医学に励みたいと思います。最後になりますが、自分たちの学習のために協力してくださった方々に感謝申し上げます。

人体解剖実習を終えて

最初に、人体解剖実習において献体してくださった方とご遺族の方に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

毎回、解剖実習の前には、班員全員で黙祷する時間を必ず取っていました。

我々医学生の勉学のために献体してくださった方のおかげで、このように実習ができて学ぶことが出来ているのだと感じていました。

解剖実習のおかげで、教科書や参考書などではわかりづらい人体の組織や構造が鮮明に理解することが出来たと思います。教科書通りのものでないものもたくさんあって様々な新しい発見を得ることができたと思います。

そして、人体について深く知るにつれて、医学への熱意がより高まったとともに、将来医療人として、多くの人々の命を預かるとても責任感が強くなければいけないと改めて実感することが出来ました。そのためには、今後医学に対して真摯に向き合い学習していく姿勢が大切であると思いました。この経験を忘れず将来、自分が多くの人々に恩返しできるよう日々励んでいこうと思いました。

実習を終えて

医学教育の為に献体して下さった方々とそのご遺族の皆様、厚く御礼申し上げます。

今回の解剖実習を通して私は、医療に従事する上で忘れてはならないことを経験させて頂きました。実習開始前には、知識や技能が圧倒的に足りない自分が、献体して下さった方々の御厚意に応えられるのだろうかと不安に思っていました。そんな不安の中実習が始まってみると、それはとても興味深い体験の連続でした。実際の人体構造を目の当たりにすることで、その精緻さ、複雑さを現実のものとして学び、医学の奥深さ、面白さを垣間見ることが出来ました。と同時に、自分の中で最善の準備をしても理解が追いつかないという悔しさも感じました。医療従事者を目指すにあたって私は、今回の実習で感じた不安、面白さ、そして悔しさを決して忘れてはならないと感じています。今回の実習の経験を胸に刻み込み、これからの勉学に励みたいと思います。

最後に、改めて、献体して下さった方々とその御遺族の皆様、並びにこの困難の中私達の实習のために尽力して下さった先生方や教務などの大学関係者の皆様、更には共に実習を進めた仲間達に感謝申し上げます。本当に有難うございました。

解剖学実習をおえて

解剖学実習により、我々ははじめて医療者としての人間の見方に触れることができたように思う。はじめ我々は解剖学という学問を講義により学び、習得する。これは、例えば小学生が昆虫採集に没頭することに似ている。その根底にあるのは人体の構造や関連する医学に対する学問的興味なのである。そして初めてご遺体と向かい合うとき、我々はようやく自分たちの学んでいる内容の対象を真に知ることができる。我々が人生をかけて向かい合っていくのは、教科書の図でも解剖学の試験の点数でもなく、一つの命、一つの人生を背負った一人一人の人間である。その責任の大きさを受け止めながら使命と向き合うことこそが、学生とも知識人とも異なる医師という職業の在り方なのではないか。

献体してくださった方々は、我々にとっては医療者として初めて向かい合った「人間」でした。ご遺体を解剖した経験の貴重さは言うまでもありませんが、実際に行ってみた今では自分自身の人生の在り方を考えさせていただいたという意味で想像以上に意義のあった経験でした。今一度、ご献体いただいた方とその遺族の方々にお礼の言葉を述べさせていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。

解剖実習を踏まえた今後の医療の展望

まず献体してくださった方々、ならびにご遺族の方々に心より感謝申し上げます。また新型コロナウイルス感染症の対応に尽力されている中でこの解剖実習の調整を最後まで行ってくださった先生方にも重ねて感謝申し上げます。

解剖実習の目的は正常な人体構造を学ぶことにあつた。しかしながら、その「正常」というものが教科書に乗っている知識やご遺体の間でも大きく異なることがあつた。これは教科書といった既存の知識が常に正しいと決めつけず、場面や人に臨機応変に対応していく姿勢を持つこと、常に自分の頭で考えることが必要であることを示唆するものであつたと感じた。

ここで私は昨今の医療において叫ばれている「個別化医療」という言葉について考えた。自分はこの言葉は一人歩きをしていて、実際の現場に落とし込めているとは感じていない。教科書の事実を鵜呑みにせず、自分の目で確認する必要があつた解剖実習と同様に、今後の医療が向かうべき方向性は机上のみで語られるものではなく、現場に赴き、そこで社会実装できてはじめて達成されるものだと思う。

自分がこのような変革を行えるような人間になるべく、これからも仲間と切磋琢磨し、精進していききたいと思う。

人体解剖学実習を終えて

まずは、ご献体いただいた方とご遺族の皆様にご深く御礼申し上げます。

私たちは座学の講義を受けた後、更に予習をしてから実習を行います。座学・予習では教科書等の図や写真を見ながら、神経・血管・筋肉などの位置や構造を何度も確認します。このような準備のうえで実習に臨むのですが、ご遺体では神経・血管などの重要な構造物が想像を遥かに超える緻密さを持って体内にあることを実見しました。特に身体の機能を維持する大切な構造物の近接性や教科書との違いを目の当たりにして、将来、医療行為を行う際に寸分の間違いも許されないこと、診療や手術において考慮しなければならないことの多さを身に染みて感じるとともに、良い医師となるためには、医学生としても、また医師となった後も不断の努力が必要であることを痛感いたしました。

ご献体いただいた方とご遺族の皆様のご厚意に応えるため私にできることは、ご遺体からの学びを活かして精進を続け、良い医療人となることだと信じております。また、この解剖実習は将来にわたり、医療行為の重大さや責任を意識する礎になると思います。このような貴重な機会を提供いただいた皆様に重ねて感謝申し上げます。

解剖実習を終えて

初めに私たち学生のために献体をしてくださった方々、及びご遺族の皆様にご心より感謝申し上げます。

私は医学部に入学してから解剖実習をする前までは教科書で人体の構造や機能に関して色々と学んできました。しかし、それはあくまで机上の勉強であり実際にご遺体を解剖をすることとは大きな隔たりがありました。教科書は良くも悪くも学生が見やすいような図や写真を載せており理解するのは容易ですが現実とのギャップがあります。ご遺体を解剖することにより、教科書では単純だと思っていた構造が実際はより複雑なものであったり、そもそも教科書とは違った構造である部分も少なくはなかったです。このように教科書では学べない多くのことを解剖実習では学ぶことができました。また知識の面だけではなく、人を扱う医師という職業の責任の重さに関しても改めて認識することができました。

将来医師になる私にとって大変貴重な経験となりました。この経験を無駄にしないよう、これからも勉学に励み立派な医師になります。

最後に、医学教育のために献体をしてくださった方に重ねて感謝いたします。

人体解剖実習を終えて

私たちの解剖実習のために献体してくださった方とそのご遺族の方々、ご尽力いただきました関係者のみなさま、先生方、共に学びをすすめた仲間たちから感謝を申し上げます。

私は当初、解剖実習に対し不安や緊張が大きく、実習を行えるかどうか心配しておりました。しかし、実習初日に実際にご遺体を見たとき、改めて命の重みを感じ、医学の進歩のため、ご遺体を提供してくださった方々に感謝の念がこみ上げてきました。解剖実習を通して、人体の正常な構造を知るのみならず、自分が今医学を学んでいることはいろいろな人の協力のもので成り立っているのだなと感じ、医学生としての第一歩を歩きました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、医療に大きく注目された年でした。将来、多くの人に感謝される医師になるために、今回の実習は非常に実りあるものになったと思っております。改めて、このような機会を私達に与えて下さった、献体をしてくださった方やご遺族の方々に、深い感謝を申し上げてこの文を締めさせていただきます。

解剖実習を終えて

まず初めに、献体してくださった方とそのご遺族の方々に、心より感謝申し上げます。並びに、実習を通してご指導をしてくださった先生方に深く感謝致します。例年とは異なり、特殊な情勢の中で行われた解剖学実習は、我々を医療人としての覚悟をより一層堅めたに違いないと思います。

実習初日に、献体してくださった方に黙祷を捧げ、初めてご対面した時のことを、私は一生忘れないと思います。頭では医学とは人を対象にする学問と理解していても、こんなに現実を感じたことはなかったからです。教科書で勉強しても、図を見て理解しても、実際実習になると、想像以上の複雑さでした。医学の対象は人、だから医者にはミスをしてはいけないと、その責任の重さを痛感しました。

この三ヶ月の実習を通して、二度と得られない貴重な経験をさせていただけたことに、重ねて感謝を申し上げると共に、この気持ちを一生忘れることなく、責任ある医師になるための礎として、この経験を活かしていきたいと存じます。今後とも、より一層勉学に励み、社会に患者の方々に頼られる医師を目指していきたいと思えます。

解剖実習を通して得たもの

私は、この解剖実習を通して、「知識」と「自覚」という大きな2つのものを得ることが出来ました。

まず「知識」についてですが、座学として解剖を学ぶだけでは実感が今ひとつ得られず理解も大変に浅いものになってしまいます。百聞は一見に如かず、ということわざの通り、実物を見て初めて得られた理解や発見がたくさんあり、大変勉強になりました。

次に「自覚」についてですが、私たちが実際に医学を学び始めたのはつい最近のことです、それまでは医学部に入ったものの教養部で医学とは縁の浅い人文科目などの教養の勉強をしてきました。もちろん医師を目指して入学してきましたし、頭では分かっていたのですが、今ひとつ実感も湧かずにいました。しかしいざ、ご遺体と対面した時に、全身に今までに経験したことのない種類の緊張が走り、「人」を診ることの何たるかを強く自覚しました。

この経験は、私に様々なことを学ばせ、気づきを与えてくれました。これからの学びにも必ず生きてくるものと思います。このような恵まれた教育を受けられる喜び、感謝を胸に、日々精進してまいります所存です。

最後に、献体して頂いた方とご遺族の皆様には、厚く御礼申し上げます。

解剖実習を終えて

僕はこの解剖学実習で何にも代えがたい経験をすることができました。

まず、人間の体の複雑さを再認識しました。当然ですが、講義で教わった人体の構造はとても複雑で構造物が多いので、覚えるにはとても時間を要します。ですので、その日に解剖する範囲だけでも復習して、再度頭に入れて解剖に臨みましたが、構造物は教科書通りの場所にならないことも多く、教科書ほどはつきり見分けることができませんでした。そして、自分がいかに未熟なのか、勉強が足りていないのかいうことを改めて実感しました。

また、この解剖学実習を通して人の命を預かる医師の重みというものを感じました。一年生の頃はカエルやラットの解剖を行いました。生物学の授業として行っている感覚しかありませんでした。解剖学実習では、僕たち医学生教育のために献体してくださった方がいて、その決断を認めてくださったご遺族の方々がいて、医師になるといふことの重みを新た得て感じることができました。最後に、献体してくださった方々、そのご遺族の方々、本当にありがとうございました。この貴重な経験、重みを胸に刻んで、立派な医師になるために努力を重ねていきます。

解剖実習を終えて

献体をしてくださった方、そのご遺族の方々に感謝の気持ちを述べたいです。非常に貴重な経験をさせて頂き、本当に感謝しています。

解剖をする前は、教科書や模型で見る体のイメージはあったものの自分の中でしっかりとイメージが湧いていませんでした。実際に目にする臓器や骨や筋肉は教科書で見たものとはまるで違って、大変興味深かったです。教科書との共通点はあるものの相違点も多くあり、人それぞれ本当に様々なのだと強く感じました。血管の走行や筋肉の発達具合といった特徴からはどうしてもその方の生活に思いを巡らせてしまわずにはいられませんでした。

まだまだ未熟な私達にこのような機会を与えてくださったことに心より感謝しています。この実習は大変自分の中で大きな学びとなったので、今後の学習にもしっかりといかしていこうと思います。多くの人に支えられながら学生生活を送っているということを改めて実感し、医師となつてからはそれを少しでも周りの人々に還元していきたいと思えます。

人体解剖学実習を通じて思ったこと

今回の人体解剖学実習を通じて思ったことは実習の前に予習をした医学書の通りに実際の人体に器官があるとは限らないということです。この「人によって個人差があるということ」から考えたことは、これからの学習の際にただ医学書に書いてあることを頭に入れていくだけでは不十分であることです。本の内容に疑問を持ち先生方の協力も仰ぎながらより実践的な学習をしていきたいと思えます。

今回の人体解剖学は医学部に入ってから教養部として一年生を過ごし、医学に触れてこなかった自分たちにとって初めての本格的な医学に触れる機会でした。これを通じてこれまで一般的な高校生、大学生であった自分が医学部に入っているという自覚を持つことができ、医学生としての気持ちを確認できたと思います。このような機会をいただけたことに献体をしてくださった方をはじめ、遺族の方、教員や大学の方々、同級生には感謝の気持ちしかありません。この経験はこれからの自分の人生において非常に大きな転換点となると思います。この実習を生かせるようこれからも精進していきたいと思えます。

解剖学実習を終えて

まずは私たちの解剖実習のために献体をしてくださった方々、ご遺族の方々本当にありがとうございます。

私たちは医学部で身体の構造について学んでいます。講義ではイラストや図などを用いて説明して下さるのですが、やはりイラストでは空間的な位置関係などがわかりにくく、理解が不十分なこともありました。実際に自分で解剖することで、複雑な神経の分岐などを自分の目で確認することができ、理解がとても深まりました。

はじめは上手くできるのか不安でしたが、写真やイラストでしか見たことなかった構造や、形態の若干の違いなどを見つけるたびに、学べる喜びと実際にご遺体を解剖させていただける感謝の気持ちを感じました。

将来医師として活動するにあたって様々な方の命を預かることになりましたが、この解剖実習の時に感じた責任感や献体してくださった方に対する尊敬の気持ちを忘れないようにしたいです。この実習を通して、医学生であるという自覚を持つことができました。

最後に、献体してくださった方々、そのご遺族の方々に改めて御礼申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。

解剖実習を終えて

まずはじめに、献体してくださった方、そしてそのご遺族の皆様にも、深く感謝させて頂きたいと思えます。

医者になることを志す医学生として、実際に実習を行えたことは非常に大きなことであり、学べたこともとても多かったと心から思っています。もちろん実習を行なっている期間もそうでしたし、終わった今、医学の勉強をしても、教科書で見えるものよりはるかに多くのものを理解できました。特に教科書で見てもイメージがわからないところを実際に見れたことで、正確に理解できたことは、今後の勉強でも、医師として働くときも、絶対に役に立つてくると思いますし、そのために努力していきたいと思えます。

それに加えて、今のタイミングで実習を行えたことは、医師となるという自覚を改めて強くすることができました。一般的には行わないことを行うということで、やはりきちんとした覚悟や認識が必要だと、身をもって感じることもできました。

最後にそのような経験を積むことができたのは、献体に協力してくださった方々のおかげです。本当にありがとうございます。御恩を忘れずに、この経験をきちんと生かしていきたいと思えます。

バーチャルな貢献の源泉

医学が興って以来、かかりやすい病気も治療法も教材もすべてが変化してきたが、遺体を解剖して自分の目で観察する行為はどの時代にも変わらず行われてきたもので、今後もそれを代替する教育法はないのだろう。それを経験させていただき、数々の解剖研究論文の一端を垣間見れたこと。それはこれまでの無数の知識に尊敬の念を抱くとともにそれを継承し発展させる一翼を担う、そのスタートを切ったことを啓発された心地がした。

今日、医学の発展が滞りなく、発展が優先され望まれる社会の背景には献体しただけの方による支えがある。それは物質的なものだけではない。一人の決断によって周りのたくさんの方の行動は日常レベルで変わっていく。物質的そして精神的な貢献は自身の唯一の自然発生的なエナジーとなるし、それは形を変えて周りの人へとつながるのだ。実際に解剖をした学生や医療従事者はもちろん、その周りの人にも貢献をうけるとそれに報いるために違う形で貢献は広がっていく。この度献体をしてくださった方は、亡くなった後も貢献の源泉となる尊い決断をしたことに深い感謝を申し上げます。

解剖実習を終えて

私たちの実習のために献体してくださった方、ならびにご遺族の方々に心より御礼申し上げます。

解剖実習は、解剖的知識を学ぶことにとどまらず、実際の人体は教科書通りではなく、多様であるのだということを学ぶことができました。医療の現場においても、確実なマニュアルがなく、臨機応変に対応しなければならない場面がいくつもあると思うので、今後そのことを頭に入れつつ、経験を積んでいきたいと思っています。また、実際に手を動かして観察し、視覚的に人体の構造を捉えることで、深い理解に繋がったと思います。このような実習の機会が得られたのは非常に恵まれていることだと改めて実感致しました。

新型コロナウイルス感染症の流行による危機的状況において、ワクチンや薬がなく、困難な状況の中働いて下さっている医療従事者の方々の大変さは想像を遥かに超えるものであると思います。医師は、単に医学の知識を頭に入れていくだけでなく、状況から判断する力、他者と協力する力など、総合力を持つことが必要だと思えます。今回頂いた貴重な経験を活かし、さらに勉学に励んで参りたいと思います。

人体解剖学実習を終えて

昨年の教養部での学びを経て、今年度からは専門となる医学課程の学習を行う一年が始まりました。新型コロナウイルス感染症の影響もあって本来予定されていたカリキュラムが大いに変更を強いられ、Zoomを用いたオンライン講義が四月から始まり、そしてそこで学び取った知識をもとに本解剖学実習は六月～七月という日程で行われることとなりました。

解剖実習ではまず最初にご遺体の観察を行いました。初めて実際にヒトの解剖を行うということもあって実習への不安を感じた部分もありました。ただ、回を重ねていくにつれて次第に実習作業を円滑に行うことができるようになり、また解剖の知識も蓄えることもできて非常に有益な時間を過ごすことができました。ただ単に解剖書に描かれていることを眺めることからでは得られないものが実習を通して身についたと思います。

本実習はご遺体を献体していただくことによって初めて行うことができます。献体をしてくださった方、ご遺族の方々には感謝申し上げます。そのことに対する感謝の気持ちを忘れずにこの学びを今後の学習に生かしていきたいと思えます。

人体解剖学実習を終えて

この度、私達が人体解剖学実習を行うにあたり献体して下さった方々とそ
のご遺族の方々に深く感謝申し上げます。

私は人体解剖学実習を行う前、自分に実習ができるのだろうかと不安に感じ
ていました。しかし実際にご遺体と対面して、その不安はなくなり、誠意をもつ
て二年生の今しかできない実習に精一杯取り組もうという決意に変わりました。
人体解剖学実習を通して、教科書や講義だけでは学ぶことができない臓器の構
造や神経の走行の仕方などの人体の複雑な構造について多くのことを学ばせて
いただきました。人体は非常に精巧にできていると感じると共に、人間は一人一
人全く同じ構造を持っているわけではなく、人間の命は非常に尊いものだと深
く感じ、医師になるうえで心構えも学ばせていただきました。

将来社会に貢献できる医師となり、私達のために献体して下さった方々の
思いに応えることができるよう、実習での貴重な経験と献体して下さった
方々への感謝の気持ちを忘れず、これから更に一層勉学に励みたいと思います。
本当にありがとうございました。

解剖実習での変化

六月から始まった解剖実習は、自分が今まで生きてきた中であまり考えてこなかったことについて考えるきっかけになりました。最も大きかった変化は、医学学生であるという自覚を強く持てるようになったことです。一年生の間は教養課程で、医学に直接的に関連したことは学ばなかったし、二年生になってから医学の授業を受けているときも、今までの勉強の延長戦という感じがしていません。しかし、実際にご遺体を解剖することで、自分は医学を学んでいるということとを強く意識できるようになりました。人体がとても繊細にできていることを実感することができたし、何より、人の命の尊さを実感でき、医者がこういった心構えで患者さんと接するべきなのかということを考えるきっかけになりました。

私はまだ医学を学んでいる途中で、まだわからないことだらけですが、これから患者さんと接するにあたって、一人の医師として人の命を守るために行動できるような心掛けていきたいです。最後になりましたが、ご献体してくださった方には、とても感謝しています。ありがとうございました。

解剖学実習を終えて

初めて献体と向き合った際はとても緊張しました。しかし献体をして下さった方への感謝の気持ちと、将来人の命と健康に向き合う職業に就くという責任感を深く感じ、解剖実習の一回一回に私なりに真剣に向き合うことができました。

実習を始める前から人体について学び、人体の構造についてある程度分かっている気になっていましたが、実習を行う中で教科書で学ぶこととそれを実際に観察して学ぶことは全く違う事だと気づきました。単なる暗記した知識だったものが、将来治療という行為を行う上で必要な経験に変わったと思います。

解剖実習を通じて、将来に活かせる大きな学びを得ることができました。私たちの学びの為に、そして将来の医療の発展の為に献体をしてくださった方に深く感謝します。またより良い実習が出来る様に支えてくださった先生方や大学の方にも感謝しています。今後医学生としてより高度な内容を学び、医師として働く上でこの解剖実習で学んだことを忘れずに、自分の中の礎として活かしていきたいと思います。

百聞は一見に如かず

私にとって、この一連の解剖学実習は自身の将来について深く考えさせられるものでした。今までご遺体をドラマや映画といったフィクションを通してしか見たことが無く、当初は向き合うことに抵抗を覚えていました。しかし、実習が始まって実際にご遺体と対面すると、医学の発展のため献体された方のお覚悟を感じ、医学を修めるといふ行為が斯くも様々なものの上に成り立っているのが思い起こされ、身が強く引き締まる思いでした。

百聞は一見に如かずという言葉がありますが、この解剖学実習ほどこの言葉を実感したことはありません。実習が始まる前に全ての講義を聞き、粗方理解した気になっていましたが、実習が始まると如何に自分が天狗だったかということとを思い知らされました。また同時に、人間の身体を扱うということがどんなに難しいのか、そのために要求される知識量、学習量がどれだけ大きいかということを感じました。

献体していただいた方々に感謝し、その方々に胸を張れる医師、研究者になれるよう精進したいと思います。

解剖学実習を終えて

解剖実習という貴重な体験をさせていただくうえで、献体をしてくださった方と、そのご遺族の方々に深く敬意と感謝を表したいと思います。

自分たちが一年生の教養部から二年生の医学部に進級した時期は、新型コロナウイルス感染症で社会での医療の重要性が再確認されたタイミングであり、同時に医療の不十分な部分が顕著に表れたと思います。そのような時期に医学部生になった立場として、より真摯に医者になるために学べることは全て学ぼうという心持ちで解剖実習に臨みました。初めてご遺体の前に立ったときは今までなかった経験に不安や緊張もありました。しかし、ご自分の意志で献体という重い決断をしてくださった方の意思を尊重し、少しでも多くのことを学び、将来医師として社会に貢献することだと意識するようになりました。

実際に解剖をしていると、自分の手を動かし自分の目で人体を見ることは教科書の文章や図とはまるで違うと感じました。これから専門医学を学ぶでいく将来においても貴重でかけがえのないものになることを深く実感しました。これからも今回学んだことを忘れず、常に真摯に人に向き合う医師を目指していきたいです。

解剖実習を終えて

まずは献体してくださった方、そしてそのご遺族の皆様にご挨拶申し上げます。

無事に解剖実習を終え、座学だけでは学びきれない数多くの重要なことを学ぶことができました。当たり前のことではあるのですが、すべてが教科書通りではないこと、一人一人のご遺体に違いがありながら、すべてが人体として機能していることに、どこか人体の神秘のようなものを感じました。

人体解剖学はこれから医学を学ぶ上で、すべての基本になる分野です。人体が実際にどうなっているか深く知ることができたことで、今後の学びに大きく結びついていくと思います。そして自分の不勉強も強く感じました。学び足りないことはいくらかもあること、これから貢献するためには今後も研鑽していかなくてはいけないことを改めて認識しました。そしてご遺体に対面することで一人一人の患者さんにこれから向き合っていくことを強く認識することができました。

改めてこのような機会を設けていただけていることに深く感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

解剖実習を終えて

まず、この度の人体解剖学実習において、献体してくださった方とそのご遺族の方々に心より感謝申し上げます。

実習では本当に様々な貴重な体験をさせて頂くことができました。やはり、いくら体の構造について教科書の図や写真をみても、ただそれは受け身の形で書いてあることをなぞるにすぎませんでした。しかし、医師になって実際に向き合うことになるのは生身の人間です。この実習を通して、直接実物を自分の手を動かして、観察をして、どのような構造になっているのかを理解することができたのは貴重な時間でした。

また、医療人としての意識も変わりました。今までは単に本をよんで勉強していたものを、実物を見ることによって、これから人の命に関わる仕事をしていくのだとより強く実感しました。それだけでなく、私たちのために献体してくださった方々の思いを受け、さらに成長して将来社会に還元していこうと気が引きまりました。

繰り返しになりますが、このような貴重な体験をすることができたのは献体して下さった方のおかげです。本当にありがとうございます。今後この体験を活かして医師を目指して日々励みたいです。

解剖学実習を終えて

はじめに献体をしてくださった方並びにご遺族の方へ御礼を申し上げます。

今回の解剖学実習を行うことで座学だけでは学べないことを学ぶことができました。教科書や資料にも図や絵が載っており、どこに何があり、どのような構造になっているのかを学ぶことができますが、実習を通じてそれらの知識をより深く身に付けることができました。さらに実際の人体の構造は教科書通りでは無く、ひとそれぞれ異なるということも強く感じました。

そして何十年と生きてこられた方のご遺体を実際に解剖することを通して、今までは漠然としか感じていなかった、医学生・医師として他の方の命に関わるということを強く実感致しました。それと同時に医療が多くの方のご協力のもとに成り立ってきたものであると改めて感じました。このことを忘れずに医療に携わる者としてこれからも精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、献体してくださった方に追悼の意と共に感謝の意を込めて結びの言葉とさせていただきます。本当にありがとうございます。

解剖で得た生命の重さと医学的経験

この度、新型コロナウイルス感染症の影響下で解剖学実習を行えるのか少し不安でしたが、無事実習を行うことができ、貴重で得がたい経験ができました。

解剖学実習を始める前、人体を解剖をして、一体何か得ることがあるのだろうか、教科書と同じ内容を確認するだけではないのだろうかと思い、解剖学実習の意義をあまり見いだせていませんでした。

しかし、この実習では今まで経験した様々な実習よりも重く、得ることが多かったです。実際にご遺体に触れることで教科書からは得られることができない様々な知識、筋の厚さや長さ位置関係、神経の細かい走行などを知ることができ、今後の医学の勉強を行う上で大切な知識を得ることができました。また、この実習を通して、より解剖学の授業の内容がより吸収しやすくなり、大変勉強になりました。

ここで得た多くの経験を今後、医師となり、臨床や研究の分野で活かすことができる様、これからより一層努力をしていきたいです。

解剖実習での学び

献体してくださった方に心より感謝を申し上げます。ご遺体を解剖することを通してたくさんのことを学ぶことができました。

解剖に際して、初めてのことで不安な気持ちがありました。それよりも、責任を持ってご遺体を解剖しなくてはならないという強い使命感や緊張感を感じていました。そのようなプレッシャーと手際の悪さで、はじめは解剖をすることがに精一杯でした。しかし、だんだん回を重ねるごとに、解剖をすることで自身の知識が厚みを持つてくるような実感がでてきて、解剖を通じてもいろいろなことを学びたいという前のめりの姿勢になっていきました。

私たちは医学生として本当に貴重な体験をさせていただきました。このような大きな学びを得られたのは献体に協力してくださった方々のおかげであるということ深く心に刻むと共に、この経験を全部活かして、将来医師となりたくさんの人を笑顔にできるような人になります。

人体解剖学実習を終えて

まず初めに、この度我々の学習のために献体してくださった方々、そのご遺族の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

今回、解剖実習を終えたことで、よりこの解剖実習の意義というものを理解することができました。教科書や講義を通じて人体の構造を学んでいるときだけではどうしても理解しがたいこと、イメージしづらいことの解消ができたり、さらに実際にご遺体を見たことよって得られる気付きもありました。我々が学習を進める上で欠かすことの出来ない非常に貴重な体験であったと感じています。

解剖実習を通じて、献体してくださった方々の医歯学の発展に対する期待や、我々が立派な医師・歯科医師になることに対するご協力を痛感いたしました。それらを裏切らないためにもこれからより一層一生懸命に学んでいかねばならないのだとその責任を痛感いたしました。今回の経験を胸に頑張っていきたいと思えます。そして、改めて、献体をしてくださった皆様と関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

生命の神秘と尊さ

この度は、私たちの医学教育のために、ご協力くださり本当にありがとうございます。また、ご厚意に心より感謝するとともに、改めてご冥福をお祈りします。

私が医学部に入ったのは、小さいころから病弱で、今まで多くの方に助けていただいたので、少しでも恩返しができたらなと思ったからですが、今回の解剖実習でも、様々な人に助けて頂いていることを実感し、改めて医師になることの重要性と責任を感じました。解剖実習では、座学で無味乾燥に覚えた知識を有機的に結び付け、確固たるものとすることができました。普段の授業では予習をしているのですが、解剖実習では普段にもまして予習していきました。Covid-19の影響で、実習の実施が危ぶまれていましたが、先生方など多くの方の尽力によって、何事もなく実りのある実習を終えることができました。この経験をもとに、医師として自信をもって社会に貢献できるよう、これからも引き続き勉学に励みたいと思います。本当にありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

人体解剖学実習を通して、講義や参考書を通して学んだ知識を確認するとともに、医師になるという自覚が生まれたと感じています。解剖学実習を通して、人間の体はひとそれぞれ異なり、個性があるという事を実感しました。教科書やイラストでは決して学ぶことができない体内部の組織の位置関係や見た目を十分に学習できたと思います。将来医師になり多くの患者さんと触れるなかで、患者さんの体はひとそれぞれなのだという事を身をもって実感することができましたし、座学で学んだことを実際のご遺体で確認することができたのは、大変有意義だったと感じています。

これらの深い学びができたのはひとえに献体をしてくださった方々のおかげであると思います。我々が将来卓越した医師となり、人々の健康を守ってほしいというご遺族の方々、献体してくださった方々のご期待に応えるべくこれからの学生生活、またその先の人生を送っていく所存であります。最大の恩返しは大学を卒業した後、医師として人々の健康的な生活に貢献しまた次世代を育てていくという事だと思います。日々研鑽し、必ずや恩返しをすることをお約束いたします。本当にありがとうございました。

解剖実習を終えて

まず献体して下さった方々、遺族の方々に、解剖実習の機会を与えて頂いたことを御礼申し上げます。顔も知らない医者の方でしかない私たちのため、献体することを決断して下さった皆様には大変感謝しております。

実習開始当初は人の体にメスを入れ、組織を掻き分けていくことに大きな抵抗がありました。しかし、次第に折角献体していただいたのだから、可能な限り勉強しようと考えようになりました。

解剖実習に先立って人体解剖学の講義を学習しましたが、実際の実習では座学では得られなかった気づきが多くありました。細かい構造へ目を向けると、教科書とは異なる部分や、ご遺体間での違いを観察できました。

また実際に人の体を解剖させていただいたことで、人体の奥深さを感じたと共に、命とは何なのかについて改めて考えさせられました。医師としての必要な知識の吸収に加えて、医師として備えるべき倫理観の形式という点でも大変実りのある実習でした。

今回の経験を胸に、今後も一層精進していく所存です。本当にありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

献体体してくださった方、親族の方々、また献体の会の会員の皆様に深く感謝を申し上げます。ご遺体を解剖する貴重な経験を頂きましたおかげで、医学生として多くのことを学びました。

今の時代では、教科書だけでなく電子アプリなどの様々な方法で人体の構造について学ぶことができます。しかし実際のご遺体を解剖してみても、教科書などで見るのと実際のご遺体を見るのではまるで違うことを実感しました。体の各構造の外見や位置、他構造との関係性などを自分の目で確認することで、座学で学んだことへの理解が深まりました。人の体は二つとして同じものではなく、また教科書通りの構造をしているものは存在しないのだということ強く感じました。

ご遺体を解剖する時には常に、ご遺族の方々の存在が思い出されました。この実習から多くを学べるようにとこのような機会を与えてくださったこと、改めて感謝申し上げます。この感謝の意を忘れずに、これから先も熱心に学習し、立派な医師になりたいと思います。

解剖学実習を終えて

まずは献体してくださった方とそのご遺族の方々に感謝の言葉を述べさせていただきます。私が所属する班で担当させていただいた方は、教科書では見られないようなさまざまな構造も複数みられたこともあり、とても興味深く解剖を進めることができました。

今年は COVID-19 の流行もあり人体解剖学の講義と人体解剖学実習の間に時間が空いてしまい、講義の内容を踏まえた正確な解剖が行えるかどうか不安でしたが、むしろ逆に解剖を行っているうちに講義の内容を思い出すことが多く、解剖実習の重要性を再認識することができました。解剖実習を経験して、私は少しですが精神的成長をすることができ、ひとのからだの見方が変わったことを実感しました。

最後に、献体してくださった方とそのご遺族の方々にもう一度感謝を述べさせていただきます。ありがとうございました。

解剖学実習を終えて

まず解剖学実習を終えて私が抱いた感情としては、ご献体をしてくださった方、そしてそのご遺族への感謝、そして数か月間かけて目の前のご献体と向き合うことができたことに対する達成感です。

元々器用でない私は、解剖学実習が始まったところは複雑な構造を解剖する際は混乱し、特に時間がかかっていました。それでも自分が予習してきたことに自信を持ち、自分が満足のいく剖出を目指し、達成してきました。結果的に各々の臓器や組織や器官の名前に留まらない、空間的な、かつ包括的な人体の構造の理解ができたように思います。解剖学実習によって人体の細部から細部までの連続性が理解でき、講義だけでは得ることのできない深い学びを得ることができました。

このことは献体してくださった方のお気持ち、そしてそのご意思を尊重していただいたご遺族の方たちのご理解なしには実現しえなかったように思います。改めて深い感謝を述べ、結びの言葉とさせていただきます。

初心忘れるべからず

この度の解剖学実習は、正直、医学部を志望し始めた頃からずっと待ち焦がれていた。外科医を目指している身として、ご遺体を通じて、人間の体の神秘を学べる機会など、夢のようなものであった。長年積み重なったこのような思いもあり、解剖実習の日々は毎日が緊張感と新しい発見に対する興奮で一杯であった。そして何よりも、このようにご遺体から直接解剖学を学ばせていただけるといふのがいかに貴重な経験で、自分が医学生としていかに恵まれているかにも日々気づかされた。人の命を直接扱う医師という職につくという重みを改めて感じた。

毎回の実習のあとに、個人用に記したノートがある。そこには、ご遺体を解剖するにあたって学ぶことができた、教科書には書かれていない新発見や、その日の経験を通じて深まった、医学に対する思いなどが記されている。将来、無事外科医になったとき、このノートを見返して、私がこうやって医学を通じて働けるのもご献体してくださったこのような人々が基盤を形成するのを助けてくれたことをきちんと思い返し、初心を忘れずに邁進したい。

解剖学実習を終えて

今年度は、COVID-19の影響で実習の日程が不透明になった時期もありました。そのため、実際にご遺体を解剖させて頂くということの貴重さを、一層強く感じました。どんなにわかりやすい講義を受けたり、教科書などを使って自己学習したりしても、実際に自分の目で見て手を動かして学んだことには敵いません。実際に、医師である私の親も、学生時代の解剖実習での経験は今でも鮮明に覚えていると言っていました。今回の解剖学実習で得た貴重な経験を無駄にしないよう、今後の学習に活かしていきたいと思えます。

それと同時に、これまでは講義での学習がメインでしたが、解剖学実習で本物のご遺体を解剖することになって、医学生としての自覚、将来医師になるということの重みを、肌で感じる事ができたように思います。

最後になってしまいましたが、このような貴重な学習の機会を与えてくれた、献体して下さった方々には、心から敬意を表するとともに、感謝申し上げます。

死とは

ご遺体を解剖する際、常に「死」というものが僕らの頭の中に存在していた。

しかし、それは僕らが今までに経験した身内の死でもなく、まったくの赤の他人の死でもなく、少しだけ僕らに近い他人の死であった。

「死」とはなんだろうと、僕はそれに頭を悩ませた。

肉体はここにあるじゃないか。

心臓が拍動してるかしていないか、それだけで人の生死を判断していいのか。

よく生死について議論する際には、人は死んでも誰かの心に残れば生き続けるのだ、という考え方を耳にする。僕らのご献体の方はとても綺麗な肉体を持った方であった。生前はとてもいい人だったのでだろうと想像した。それほど整った肉体であった。そして精神も整った方であったのだろうと容易に想像がついた。それだけに、ご献体の方の、僕らの解剖学の理解を深めてあげようという思いを、ひしひしと胸に受け止めながら僕らはメスを持っていた。このような心を忘れずに生涯を医者として全うしたいと思った。

解剖実習を終えて

献体してくださった方々、そして御遺族の方々に、解剖実習を行わせていただきましたことを心より感謝申し上げます。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対面授業を行うのが難しい状況下で、無事に実習を行えるよう尽力してくださった先生方や教務係の方々にも感謝が絶えません。

人体解剖実習を通して、教科書を読むだけでは疑問にさえ思わなかったことにも、「なぜこのような構造なのか」「なぜこのような特徴を持つのか」という疑問を持つことが多くなり、答えを模索しながら取り組んでいました。そして、体をつくる一つ一つの要素や特徴には意味があり、それらが複雑に影響しあって生命を誕生させているのだと実感することができました。裏を返せば、複雑なネットワークから生命が成り立っているからこそ、ごく一部分の異常が体全体に影響を及ぼしうるのだということにも納得が行きました。そのため医師になった暁には、患者さんの身体の一部のみに目を向けるのではなく、身体的・精神的健康状態を総合的に診られるようになりたいと感じました。

この経験を通して培った視点を今後に活かし、努力していくことを誓います。本当にありがとうございました。

覚悟と自覚

医師というのは人の命を預かる仕事である、という言葉は様々なところで耳にします。責任の重い職であるからこそ、覚悟と自覚を持って日々を過ごさなければならぬと大学入学以前から日々感じていました。幼い頃から医師を志していたこともあり、人一倍の覚悟と自覚を持ち合わせていることを自負していました。

しかし、この自負は虚構なものに過ぎないという事実を突きつけられました。ご遺体と対面した時、献体してくださった方の思い、命を預かるということはどういう事なのか、そして自分には覚悟も自覚もまだまだ足りないのだということとを痛感させられました。

解剖学実習を通じ、命を預かる覚悟とはなんなのか、その自覚を有するには自分にはなにが必要なのかを考えさせられることが数多くありました。なかなか答えの出るものではないのですが、まだまだ覚悟も自覚もつききってはいないということ、そして解剖学実習での経験が自分にとって大きな礎になるのだということを感じています。

命を預かるのだという覚悟と自覚を持てるような医師になる、という誓いをここにさせていただきます。この文章を締めくくらせて頂きたいと思います。

ご遺志を大切にするために

献体をしてくださった方に心から感謝したい。自分が献体の意思を固める瞬間を考えただけでも、それはとても大きな決断であることは確かだ。医学の発展のために、決断をしてくださったことを自分は重く受け止めなければならない。はじめてご遺体に触れた時は本当に緊張の連続だった。その緊張は、いつおさまるのか予想がつかなかったが、その次の実習でもまた同じように緊張した。その緊張感の中で、先生方の存在は絶大だった。人体に関するご指導をいただいたくとともに、どのように解剖実習を受け止めるのかという精神的な面も支えてくださったように感じる。実習中、ご遺体のお顔を拝見し、この方はどんな人生を歩まれた方なのか、もしご存命なら自分にどんな言葉をかけられたらどうかと考えることもあった。そんな時、今ここで自分がすべきことは何なのかをその都度問い正してきた。ご遺志を大切に、一つも見落とさないようにつぶさに観察させていただき、教科書だけでは分からない人体の厚みや内臓の大きさ、骨の色、全てを学ばせていただく、それがご遺志を大切にすることなのではないかと考え、実習に参加させていただけってきた。

解剖実習を通して得たもの

私たちの実習のために献体をしてくださった方々、及びそのご遺族の皆様
心からの感謝を申し上げます。

解剖実習は私たちにとってとても有意義なものでありました。人体の構造への理解が深まったことは言うまでもありませんが、なによりも医学生としての自覚が強くなりました。実習前の医学の勉強はどこか無機質でありましたが、この実習を通じ、私たちは人を対象とした学問を学んでいることを実感しました。自分の不勉強が将来人の命を奪ってしまう、そしてそれが想像よりも簡単であることを学びました。この実習は、単なる学問としての医学から人を救うための医学への転換点だったと思います。

このような機会を得られたのは、献体に協力してくださった皆様のおかげです。皆様の期待に応えられるように日々努力してまいります。再びになりますが、献体をしてくださった方々、及びそのご遺族の皆様
心からの感謝を申し上げます。
ありがとうございます。

人体解剖実習を終えて

今回の大変貴重な経験を与えて下さった、献体して下さった方とそのご遺族に感謝します。解剖実習がはじまる前は、自分に解剖が上手くできるのかという不安があったり、ソフトで描かれた模式図や模型を用いることでも必要なことは学べるのではないかという気持ちがあったりと、あまり前向きではなかったです。

しかしながら、二か月に及ぶ解剖実習を終えたことでその気持ちと考えは変わりました。実際に筋肉を見たり、血管や神経を自ら探したりすることによってより深く記憶に残すことができました。また、解剖を行ってみると模式図の通りになっている部分は想像以上に少なく様々な苦労を経験することとなりましたが、その苦労も医師となる上で必要なのだとわかってくるなど、自覚が芽生ええました。

このような貴重な経験は、献体して下さった方とそのご遺族のご協力があったからこそ得ることができたものです。献体をして下さった方とそのご遺族に改めて感謝の意を表します。

解剖実習を終えて

解剖実習を通して、人の命に関わる医師という仕事について改めて考えました。

実際に観察した人体は想像以上に複雑かつ繊細で、強い驚きと尊敬の念を抱きました。医者は疾患を治療し、患者さんのお役に立つことができる素晴らしい職業だと思います。しかしその人体の精巧なメカニズムゆえ、誤った治療は悪影響を及ぼし、最悪の場合患者さんの命を奪ってしまう可能性があります。医者を志す者として。このことは決して忘れず、常に謙虚な気持ちで、将来患者さんにとっての最善の選択、行動ができるよう学習に励まなくてはならないと強く感じました。学ばなくてはいけないことが多く、くじけそうになることもあります。が、この決意は弱い自分のことを叱り、励ましてくれることと思います。

このような貴重な機会を下さり、献体してくださった方、そのことに同意してくださったご遺族の方々には感謝に堪えません。今回の実習で学ばせていただいたことを胸に、患者さんがより良い生活を送るための手助けができるようになるため、これからも精進してまいります。

実り多き実習

まずはなにより、この度ご献体して下さった方、そしてその遺族の方々に心より感謝したいと思います。

解剖実習は私の人生で初めての経験であり、とても緊張しました。今でもご遺体の前で初めてメスを手に取った時に手が震えていたことを覚えています。慣れない手つきで行われる人生初めての解剖実習は困難の連続でした。神経一つとってもこれがなんなのか非常に悩んだものです。しかし、それ以上に、今回の実習を通して私は多くのことを学びました。解剖学に関することはもちろん、班の仲間と疑問点を議論しあい、より理解を深めあった実習はとても実りのある経験となりました。頭を痛めながら剖出した神経も今ではいい思い出です。そして、私の医学部での学びは多くの方に支えられて初めて成り立っているのだと、まざまざと感じました。質問に真摯に答えて下さった先生はもちろん、ご献体して下さった方、そのご遺族の方々に改めて感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

解剖学実習を終えて

まずは、ご献体をしてくださった方、ご遺族の皆様、我々の医学教育の為に大変貴重な機会を下さったことに感謝申し上げます。

本年度の解剖学実習は新型コロナウイルス感染症の影響で、開始が遅れ、感染防止策を講じた中での実施となりました。実習の為にご尽力いただいた関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

解剖学の授業では、人体の構造について学び、臨床医学を学ぶ上で土台となる知識を培います。人間のからだについて理解することは、卒後、医師として患者さんに良い医療を提供するために必要不可欠であることを、この実習を通して強く感じました。それは、人の構造を自分の目で見て手で感じる事が出来た、ということだけではなく、ご遺体を解剖させていただく中で、命や生きていることの重みを感じる事ができたからです。

今後の医学部五年間では、良い医療を提供できる医師になるべく、医学の知識を学んで参ります。この実習を通して、医師となる道のりの第一歩を歩ませていただいたことに感謝致します。今後、患者さんとの関わり合いや周りの方からのご支援があると思いますが、この第一歩を忘れず、医師として社会へ貢献できるよう精進致します。

解剖実習を通して実感した医学の道

私は今回の解剖実習を通して医学の道に進むことがどのようなことなのかというのを深く勉強することができました。実は解剖実習の当初は実習をする意義をしっかりと認識できていませんでした。というのも、教科書で解剖の絵は分かりやすく載っており、さらに立体的に人体の構造を表示してくれる教材もあるので、それらを用いても解剖を勉強することができるからです。

しかし、実際に遺体を解剖すると、解剖実習の意義が私なりに分かりました。それはただ解剖を勉強するためだけではなく、これまでの医学の発展を身に染みて感じるためではないかと思ったのです。実際の身体は教科書に載っているような色分けされた分かりやすいものではなく、とても複雑に入り組んでいます。そのような細かい神経やリンパや筋肉を剖出し、機能や構造を研究することにどれだけの人関わっているかを考えると鳥肌が立つほどです。

このように医学は未知なことに対して力強く研究していくことで見えてくるのだと改めて認識しました。そして、このことは献体してくださった方とその御遺族の意志と近いものでもあると考えます。私も医学の道を進む身として、しっかりと勉強して、分からないことにも挑戦していきたいと思えます。

人体解剖学実習を終えて

まず最初に、献体になってくださった方とご遺族の方々に感謝を申し上げたいと思います。普段から講義や自習によって人体の構造を学ぶ機会はありませんが、実際の人体に触れて解剖を進めていき、自分の目で実際の人体の構造を観察することで、より理解を深めることができました。さらに、教科書に載っていることと実際の人体で構造に差異があることもあり、新鮮で有意義な学習をすることができました。

また、解剖する前は、自分たちが人体を解剖することに対する不安や緊張が大きかったのですが、実際にメスを持って人体を解剖したことによって、これから命と向き合っていくことをより強く実感し、医療従事者になる責任の重みを痛感するとともに、人の病気を治療する者としての自覚を改めて得ることができました。

これからもこの解剖の体験を生かしてさらに学習に励んでいき、よりよい医療従事者になることができるように努力を重ねていきたいと思います。最後になりますが、献体してくださった方とご遺族の方にもう一度感謝を申し上げます。ありがとうございます。本当にありがとうございました。

解剖実習を行わせていただいて

この度は故人、御遺族、献体の会の会員の方々のご協力のもとで無事に解剖実習を終えることができ大変ありがたく思います。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で全てのカリキュラムが例年とは違う中で行われた解剖実習でした。感染予防のため学年を二グループに分け、毎朝体温を報告して、実習中もゴーグルやマスクを必ず着用する形で実習が行われました。このような状況ではありましたが、大学の先生方の御尽力もあり例年以上に得るものの多い解剖実習とすることができたと思います。

この度の実習では人体の構造など医師として必要な知識の他にも、これからの将来を医師として歩んでいく者としての心構えも学ぶことができたと思います。

医学部は様々な学部がある中でも特に多くの人からの協力がなければ成立させることのできない学部であり、医学の道を志した者としてこれから背負うことになるであろう責任や義務を少しだけでも知れませんが認識することができました。今回の実習で学ばせていただいたことを生涯忘れることなく医師として邁進していきたいと思えます。

最後に、改めて御遺族、献体の会の会員の方達へ感謝を述べさせて頂きたいと思えます。

生涯の宝

正直、この解剖学実習までは、己に医学生としての自覚は非常に希薄でした。

医学生であることを自負しつつも、心のどこかでまだ自覚が甘く、それが行動にも表れていたことが多々あったように思います。

そんななかで、ご遺体を解剖させていただく機会を得たわけですが、その衝撃は想像の遥か上をいくものでした。端的に言えば、命を預かっていくんだな、という自覚が強く芽生えました。

実習の中で、もちろん医学的なことも多く学ぶことができ、その点でも実りは絶大なものだったのですが、それ以上に自分の心が大きく揺り動かされることを強く感じる日々でした。

実際に生身の体に触れて、解剖させていただくということは本当に貴重であり、また、献体してくださった方、ならびにその遺族の思いがなければ為せないことでした。実習の中でそれを強く感じる場面が多く、本当に感謝の気持ちが尽きません。

この経験は生涯忘れないものになると思います。なによりも心の大きな成長を果たせたこと、その機会を与えてくださった皆様に心より感謝いたします。そしてこの経験を背負って、より精進し学んでいこうと強く決意いたしました。

解剖実習を終えて

初めに献体してくださった方とご遺族の方々に感謝の気持ちを述べたいと思います。本当にありがとうございました。

解剖実習が始まる前は複雑な気持ちでした。自分の目で見て解剖し、人体構造がさらに深く理解できるようになることを非常に楽しみにしていましたが、一方で実際にご生存なさっていた方を解剖することはとても不安でした。しかし、解剖実習を徐々に進めていく中で、講義だけではわかりづらい内容の理解を深めることができ、単語カードでなかなか頭に残らなかった部位の名称も実習での解剖・観察を通してすぐに覚えることができました。教科書や講義では学びきれない人体構造の様々なパターンも理解でき、非常に勉強になりました。また、解剖実習で人体に触れることにより、自分が今勉強しているのは将来人の命を預かり、その人に自分の務めを果たすための学問なのだと思えるようになりました。

最後にこの解剖実習で学んだ知識を、将来一人前の医者として患者さんを治療するとき十分に活用し、力の限り多くの患者さんに最善の医療を提供できるように頑張りたいと思っております。このような機会を私達に与えて下さり、本当にありがとうございました。

解剖実習を終えて

この度解剖実習を終えて、振り返ってみると、とても充実したものでありました。最初は新型コロナウイルスの影響により、この度の解剖実習がどのように進むのか、また今年中にできるのか不安でしたが、結果的に解剖実習を行うことができ、とてもうれしく思っております。

百聞は一見に如かずといわれるように、実際にご遺体を解剖することと、授業のみを聞くことは全然学びの深さが違いました。僕自身は今回の解剖実習によって、解剖学というものを深く学ぶことができましたと思います。また、解剖実習を通して、僕の周りもそうだったのですが、将来医師になる医学生としての自覚を身に着けた学生が多々いるものと存じます。これからは今回得た将来医師になるという自覚を大事にして、今回の実習で学んだことをしっかりと学びに生かしていかにしていきたいと思えます。

最後に、改めて献体をしてくださった方、御遺族、献体の会の会員の方達へ感謝を述べさせて頂きたいと思えます。

解剖実習を終えて

人体解剖実習は医師を志すにあたって、とても貴重でかけがえのない経験でした。実習の前にも解剖学の講義や教科書で人体の構造を学んできましたが、解剖実習をすることによって、座学では分かりにくい複雑で立体的な構造についてより深く理解することができました。

また、実際にご遺体に触れて実習をすることで、自分が将来医師として人体に関わっていくという実感と決意を得ることができました。この経験は医療従事者としての自信にもつながってくると思います。そのような意味で、解剖実習は精神的な成長をもたらしてくれるものであったとも思います。

このような経験ができたのは献体してくださった方とご遺族の方のご協力のおかげです。本当にありがとうございます。この恩を返すために、医療に大きく貢献できるように努めていく使命があると痛感しています。これからも感謝を忘れずに、解剖実習で得た学びを生かして、より一層医学の勉強に励んでいきたいと思えます。